

初級教科書の「ナラ表現」

川 口 義 一

キーワード

ナラ・初級教科書・「文脈化」・「教材化」・学習段階・機能主義

0. はじめに

筆者は、川口 (1998)・川口 (1999)・川口 (2000) の三つの論考のなかで、接続助詞ナラの諸用法を含む表現——前稿と同様、便宜的に「ナラ表現」と称する——の「文脈化」と「教材化」の問題を考察した。特に、川口 (2000) では、前 2 稿で検討した「ナラ表現」の「文脈化」分析の結果をもとに、初級から超級にわたる、それぞれの学習段階での「ナラ表現」の指導・学習モデル、すなわち「教材化」の試案を提示した。同稿では、今後さらに研究すべき課題として 4 点¹⁾を挙げたが、それらの課題の検討に進む前に、その「教材化」試案の視点から見ると、市販の日本語教材における「ナラ表現」の指導方法はどのように批評できるかを検討しておく必要を感じた。川口 (2000) における「教材化」案——以下、「2000 年試案」と称する——が市販の教材類の「教材化」を分析するのにどの程度有効に働くかを知ることは、筆者の今後の研究にとって参考になると考えたからである。

そこで、本稿では、市販の日本語教材から、教授法上の枠組みが捉えやすい初級の日本語教科書を取り上げ、それぞれの教科書にみる「ナラ表現」の「教材化」のありかたを検討し、それらが「2000 年試案」とどの

1) 川口 (2000) pp. 22~23 参照。

ように異なるかを分析してみることとする。分析の対象にした教科書は、以下の3種である。いずれも、文型シラバスを保持しながらも、機能主義的な教授法上の志向を強く感じさせる教科書で、1990年～2000年の日本語教科書を代表するものであると考えられる。

- ① 『Situational Functional Japanese』 Vol. 1～3・Tsukuba Language Group・1991～92・凡人社
- ② 『Communicating in Japanese』・能登博義・1992・創拓社
- ③ 『新文化初級日本語』I～II・文化外国語専門学校編・2000・凡人社

1. 「2000年試案」の概観

前節で挙げた教科書各種の分析に入る前に、筆者の「2000年試案」、すなわち「ナラ表現」の学習段階別教材化案を概観しておこう。「2000年試案」は、森田良行著の『基礎日本語辞典』(1989・角川書店)とグループ・ジャマシイ編著の『教師と学習者のための日本語文型辞典』(1998・くろしお出版)における「ナラ表現」を、その「文脈化」²⁾の内容にしたがって表現類型別に分類し、なおかつ指導・学習すべき段階別³⁾に【初級前半】から【超級】に配分してみたものである。その具体的な記述法は、たとえば「山ならやっぱり富士山だ」という「ナラ表現」では次のように現

2) 「文脈化」とは、特定の語彙・文法項目・文型などを含む文や文章が、「どういう文脈」で、すなわち「だれからだれにむけて」「どういう(コミュニケーション上の)目的をもって」発信されるのかを記述することである。森田(1989)の「ナラ表現」の「文脈化」の方法については川口(1998) pp. 36～40を、グループ・ジャマシイ(1998)のそれについては川口(1999) pp. 321～324を、それぞれ参照のこと。

3) ここで「段階別」というのは、ACTFLの“proficiency guideline”をベースとしながら筆者が検討しつつある、日本語の文法項目・文型の「指導・学習レベルの段階化」のことである。おおむね、“novice”を「初級」，“intermediate”を「中級」，“advanced”を「上級」，“superior”を「超級」に対応させてあるが、「初級」～「上級」の内部をそれぞれどう分けるかなどの詳しい議論は、別稿に譲りたい。

れている。

【初級後半】

◇文型1：[名詞1なら名詞2だ]

◇例 文：山ならやっぱり富士山だ。《文型【なら1】2-(1)》

◇人 物：顕在的な情報要求者の相手 → ← 有「資格」情報提供者の自分⁴⁾

目 的：必要な情報の提供

◆教材化：文型会話練習・ロールプレイ

——山にのぼりたいんですが、どこがいいですか。

——山なら(やっぱり)富士山ですよ。

これは、『教師と学習者のための 日本語文型辞典』の「なら」の項目で、【なら1】と命名されたナラの用法の例文中、2-(1)「山ならやっぱり富士山だ」を、類似の[名詞1なら名詞2だ]文型の典型例文と考え、その「文脈化」を検討したものである。その結果、この文型は、「[顕在的な情報要求者の相手]が[有「資格」情報提供者の自分]に情報を求めてきたときに、[自分]が[相手]に[必要な情報の提供]を行う目的で発言する」という「文脈」の中で使用される表現だという記述ができる。つまり、[名詞1なら名詞2だ]という文型を指導しようと考えれば、上記に[人物・目的]で示されたような「文脈」の中において、1例としては上記会話文のような「アドバイス求め」に対する「アドバイス与え」の表現として、文型会話練習・ロールプレイなどに「教材化」して、提示・練習するのが「自然な言語使用習得」に近づくことになるのである。また、「山なら…」を含む上記の表現は、初級の後半段階ならば学習するであろうと思われるため、[名詞1なら名詞2だ]は【初級後半】で指導・学習可能な文型であると言い得る。

4) 川口(2000)では[「資格」を問われない情報提供者の自分]となっていたが、この機能は中級前半以降の学習段階にふさわしいものと考えるので、いま訂正する。

筆者の「2000年試案」は、以上のような内容の指導・学習案であるが、本稿の目的が、代表的な初級教材の「ナラ表現」についての検討であるため、分析を進める際の参考として、以下「2000年試案」中の【初級後半】⁵⁾～【中級前半】までに配置された文型を、上述の記述形態から【例文】【人物】および【教材化】の一部を除いた形で、以下にすべて紹介する。なお、【教材化】の例文・下線はすべて筆者によるものである。

【初級後半】

◇文型 1: [名詞 1 なら名詞 2 だ]

◇目的: 必要な情報の提供

◆教材化: ——山にのぼりたいんですが、どこがいいですか。

——山なら(やっぱり)富士山ですよ。

◇文型 2: [動詞・形容詞(ん)なら / 名詞なら / それなら]

◇目的: 相手の言動への共感・同調を示すこと

◆教材化: ——すみません、ちょっとてつだってくれませんか。

——あ、ごめんなさい。いま、いそがしくて。

——あ、いそがしいんなら / それなら けっこうです。どうもすみません。

◇文型 3: [名詞なら / 名詞+助詞なら]

◇目的: 「指示・依頼」への(遠回しな)拒否

◆教材化: ——きょうごご 3 時までに来てくれませんか。

——そのころはちょっといそがしくて。5 時(まで)なら行けますが。

——あ、そうですか。じゃ、あしたにしましょう。

【初級後半～中級前半】

◇文型 1: [動詞・形容詞(ん)なら / 名詞なら / それなら]

◇目的: 自分の利益の実現

5) 「ナラ表現」で、【初級前半】が適当な学習段階であるものはないと考えてよい。これも、「注 3)」で述べた「学習レベルの段階化」で議論すべき項目である。

◆教材化：——ちょっと、郵便局に行ってきます。

——郵便局に行く(ん)なら / それなら、このてがみを出してきてください。

——あ、いいですよ。出してくれます。

◇文型 2: [動詞・形容詞(の)なら / 名詞・形容動詞語幹なら / それなら ...がいい]

◇目的：必要な情報の提供

◆教材化：——春休みに温泉に行きたいんですが、どこがいいでしょうか。

——温泉に行くなら / 温泉なら / それなら、はこねがいいですよ。

◇目的：必要な情報の提供(「相手との人間関係の設定・維持・強化」を含む)

◆教材化：——春休みは、どうしますか。どこかへ行きますか。

——ええ、温泉に行こうと思っています。

——あ、温泉に行くなら / 温泉なら / それなら、はこねがいいですよ。

【中級前半】

◇文型 1: [名詞なら / 名詞+助詞なら]

◇目的：より正確な情報の提供

◆教材化：——この本のコピー、お願いしたいんですが、いつできますか。

——あさってまでなら、だいじょうぶです。いいですか。

——はい、お願いします。

◇文型 2: [名詞なら(ば) / 形容動詞語幹なら(ば)]

◇目的：顧客獲得のための情報宣伝

◆教材化：パソコンショップ「ドット」高田馬場店、駅前にオープン。

今なら▽▽のカラープリンター 30% ディスカウントなど、
開店大サービス。

- ◆教材化: —こっちの 1LDK のアパートは、一カ月いくらですか。
—4 万円です。
—ちょっと、高いみたいですが。
—そんなことはありません。ここなら都心にも地下鉄で
30 分で行けますし。

◇文型 3: [名詞なら(ば) / 形容動詞語幹なら(ば)]

◇目 的: 自分の言動への弁護 / 状態の改善についての(遠回しな)要求

- ◆教材化: —▽▽さん、最近漢字のテストの成績がよくないですね。
—1 回に 10 個の漢字は多すぎます。5 個ならちゃんと覚えられます。

◇文型 4: [名詞(ば) / 形容動詞語幹なら(ば)]

◇目 的: 相手との人間関係の設定・維持・強化

- ◆教材化: —▽▽さん、次の日曜日ひまならハイキングに行きませんか。
—ああ、いいですね。行きましょう。

2. 『Situational Functional Japanese』の場合

第 2～4 節にかけては、第 1 節であげた 3 種類の教科書の「ナラ表現」の分析を行う。本節で扱うのは、筑波大学の『Situational Functional Japanese』Vol. 1～3 である。この教科書は、書名からも分かるように極めて機能主義的な色彩の強い教科書であり、その後の機能主義教材に大きな影響を与えている。本教科書で《Model Conversation》および《Grammar Notes》に「ナラ表現」が出ているのは、以下の部分である。

◇第 4 課 IV. ～なら <1>: if you mean

《Model Conversation》(必要な部分のみ引用)

ブラウン: あの、せんたく機は、どこでしょうか。

女子学生: せんたく機。

ブラウン: ええ。場所、わかりますか。

女子学生: せんたく機なら、4階のあっち側にありますよ。

《Grammar Notes》 Examples:

① A: あしたいっしょに東京に行きませんか。

B: あしたならいいです。あしたは授業がありませんから。

② A: ペン、ありますか。

B: いいえ、えんぴつならあります。

◇第24課 I. ～なら〈2〉: if it is the case / if～

《Model Conversation》(1) (必要な部分のみ引用)

山 下: まあ、そう怒らないでよ。

田 中: だって。

山 下: アニルさんも僕も田中さんたちが行ってくれるんなら楽しいさ。

田 中: そう。じゃ、ま、いいか。

《Model Conversation》(2) (必要な部分のみ引用)

田 中: 日光がいいんじゃないでしょうか。

1月なら、華厳の滝が凍ってて、きれいそうですし。

〈中 略〉

鈴 木: やっぱ、だれが何と言っても、正月は富士山に温泉に酒だよ。〈後略〉

山 下: ええ、まあ、そうですね。

鈴 木: ロマンスカーなら、新宿から1時間ちょっとだし。

田 中: でも、日光だって、浅草から東武線の特急なら1時間半ちょっとですよ。

それに、日光ならスキーもできるし。

《Grammar Notes》 Examples:

① A: 車を買おうと思っています。

B: そうですか。車を買う(の)なら、あの店が一番いいですよ。

② A: その本、おもしろそうですね。

B: ええ、お読みになる(の)なら、お貸ししますよ。

③ A: 田中さんも行くそうですよ。

B: そうですか。田中さんが行く(の)なら、私も行きたいです。

第4課《Model Conversation》の「ナラ表現」は、「2000年試案」では【中級前半】までには配分されておらず、出て来るのは【中級後半】(p. 9)⁶⁾である。筆者が、この表現類型を【中級後半】においたのは、このような場合の【名詞+ナラ】は、【中級前半】までであれば、【名詞+ハ】に置き換えて表現してもさほど差し支えないからである。ただし、若干の記憶の負担は増えても「自然な表現」に近いものを提示し学習させたいという立場は了解できるので、【初級後半】に配置することにそれほどの抵抗はない。それでも、【初級前半】の「第4課」に提示するのは、提題助詞ハの習得もそれほどやさしいものとは言えないかぎり、早すぎないかというのが筆者の意見である。

しかし、むしろ、それよりも問題なのは、同課の《Grammar Notes》の〈Examples〉が、《Model Conversation》の「ナラ表現」とは異なるタイプのものだということである。この〈Examples〉の例文は、「2000年試案」では【中級前半】の〈文型1〉にあたる。すなわち、ここで①「あしたなら」や②「えんぴつなら」は、①「あさって」や②「ペン」を否定した場合の「より正確な情報の提供」を【目的】として行われた表現⁷⁾なのであり、《Model Conversation》の表現のように、質問に

6) 〈 〉内は、「2000年試案」での当該表現類型の所載ページ。以下、同じ。

7) ①の会話の場合は、まずAが「あさって東京に行きませんか」と言ったのに対し、Bが「あさっては、ちょっと…」と否定的に答えたあと、Aが「じゃあ、あした東京に行きませんか」と問い直したという場面であってはいじめて【中級前半】の〈文型1〉と同類型になる。そうでなければ、Bの答えは「あした」の部分が重複した答えなので、初級で指導すべきような「ナラ表現」ではなく、中級以上のレベルの学習項目であろう。

答えての単なる「必要な情報の提供」ではない。一方、同課の《Drills》(別冊 p. 83) の談話練習は、《Model Conversation》と同じ類型の、「物の所在についての Q & A」になっており、ここでは《Grammar Notes》の〈Examples〉は扱われていない。しかも、《Grammar Notes》の【Explanations】のナラについての説明は、“Nara . . . indicates that noun is taken up for further comment in the sense of if you mean”ときわめて抽象的で、その“further comment”が何のために行われるかという、機能主義的教材にとってもっとも核心となる説明がない。したがって、【初級前半】の「第 4 課」を学習中の学生にとって、〈Examples〉は事実上提示される意味も、学習される意味もなくなってしまうのである。

第 24 課における「ナラ表現」は、いっそう複雑である。まず、《Model Conversation》(2) であるが、この会話はタイトルどおり「旅行の相談」であるため、ここでの「ナラ表現」は「意向や希望の強調的提示」を【目的】とするものであり、学習段階で言えば【上級前半】〈文型 3⁸⁾ : pp. 11~12〉のものである。次に、《Model Conversation》(1) の「ナラ表現」であるが、もし今この表現を「文脈化」としてみるとすれば、その【目的】は「(好ましい状況を仮想しての)相手への説得」ということになる。このような「仮想表現」は、少なくとも初級段階なら、タラで十分表現できる(「田中さんたちが行ってくれたら楽しいさ」)ため、文法的にはもちろん、機能的にも説明の容易でない【ノ＋ナラ】形式を使用する必然性が見つからない。このような表現類型は、ナラに特徴的でないためもあったか、『基礎日本語辞典』にも『教師と学習者のための日本語文型辞典』にも取り上げられておらず、したがって「2000 年試案」にも含まれてい

8) 「2000 年試案」の【上級前半】の〈文型 3〉は、[名詞＋助詞＋ナラ]の形であるが、【会話】の「1 月なら」「ロマンスカーなら」「日光なら」は、それぞれ「1 月になら」「ロマンスカーでなら」「日光でなら」と助詞つきの意味で解釈できる。

ない⁹⁾。

一方、同課の《Grammar Notes》の〈Examples〉は、《Model Conversation》の(1)(2)いずれの表現類型とも一致せず、〈Examples〉①は「2000年試案」では【上級前半】〈文型 5: p. 12〉、②は同「試案」にはないが含まれてもよく、その場合は【中級後半】に配置されるべき、[申し出]を[目的]とした表現になろう。③は、人物 A・B の発言意図が特定しにくく、したがってさまざまな「文脈化」ができてしまう。この《Grammar Notes》を頭に入れて《Drills》を見ると、構文練習 1 (別冊 p. 169) では〈Examples〉①と同じ表現タイプの練習であるが、同 2 では①②および「自分の利益の実現」を[目的]とする別の「ナラ表現」の混合練習になっており、さらに談話練習 (別冊 p. 180) は《Model Conversation》(2)の練習、というように学習の中心となるべき機能とそれを背負う文形式の間に有機的な関連性がみつけれられない。

このように、『Situational Functional Japanese』は、「ナラ表現」に関しては、会話本文・文法解説・文型 / 談話練習の間に一貫した教授法上の枠組みがうかがえない。また、学習段階の異なるレベルの表現が同じ課に混在しているのも問題である。

3. 『Communicating in Japanese』の場合

ここでは、『Communicating in Japanese』を扱う。本教科書は、シカゴ大学の日本語教科書として使用されていた教材を、一般成人用教科書として創拓社から出版したものである。『Situational Functional Japanese』では若干不徹底だった感のある機能索引が、巻末に [The Functions Index] として整理されているところからも、機能主義的な志向の強い教科書であることが分かる。本教科書の【会話】【文法】で「ナラ表現」

9) 元来研究書である『基礎日本語辞典』はもとより、教育用文型辞典である『教師と学習者のための 日本語文型辞典』も、このナラの「仮想表現」が漏れているのは、文型研究に「機能」という概念を徹底していないためであると思われる。

が出ているのは、以下の部分である。

◇第18課 会話4

A: 南さん、西川さんから聞いたんだけど、東京へ行くんだって。

B: いいえ、まだはっきりわからないんですよ。

A: そうですか。もし行くなら、お願いしたいことがあるんだけど。

B: いいですよ。何かできることでしたら。もっとはっきりしたら、知らせますよ。

◇第18課 文法4-3

(もし)日本へ行くなら、日本語を勉強した方がいいですよ。

(もし)日本へ行ったら、日本語を勉強した方がいいですよ。

◇第19課 会話1 (必要な部分のみ引用)

B: 早速ですが、ベリーさんは日本語ができますね。

A: はい、下手ですが、少しならできます。

B: そうですか。漢字が読めますか。

A: 二百字なら、まあ、読めます。

◇第19課 文法1-6

1. A: 今日、行けますか。

B: 午後なら、行けますよ。

2. 千字は書けませんが、二百字くらいなら書けます。

◇第27課 会話1 (必要な部分のみ引用)

A: この天気なら、明日のソフトボールの試合、大丈夫だろうね。

B: でも、今朝のテレビによると、明日は雨が降るらしいわよ。

◇第27課 文法1-6

寒いなら窓を閉めてもいいですよ。

おながすいているなら、冷蔵庫に何か食べるものがありますよ。

車に乗るのなら気をつけて運転してね。

まず、第18課を検討してみよう。「2000年試案」では、【会話】4の「ナラ表現」は【初級後半～中級前半】〈文型1: pp. 4～5〉と、【文法】のも

のは同レベルの〈文型 2: p. 5〉と、それぞれ同類型である。この二つは、それぞれ[依頼][助言]と、[目的]は異なるが、学習段階が同じに設定できるので、同じ課にあってもさほどの矛盾はない。しかし、第 18 課の【練習】13 は「もし、S なら」を文型として、「大学院に入る、どこの大学院 → 中村さんは、もし大学院に入るなら、どこの大学院に入るつもりですか」のような構文練習ばかりを 6 題やらせるもので、【会話】【文法】の表現は練習問題がない。だいたい、この練習のような表現は、「もし大学院に入るとしたら / とすれば」などでも表現でき、特にナラに特徴的な表現ではなく、この課で行う必然性が見当たらない。[仮想話題による談話の開始]を[目的]とするのであれば、「タラ表現」の例文にしたほうがよい。【文法】4-3 の解説も、この表現の意味については、ナラが“hypothetical”であるという以上の説明がなく、【会話】【文法】と【練習】のずれを埋めていない。

続いて第 19 課であるが、【会話】1 の「ナラ表現」は、「2000 年試案」では【中級前半】〈文型 1: p. 5〉である¹⁰⁾。【文法】の例文 1・2、【練習】8 の 8 題の構文練習問題もすべて同じ表現類型のものであり、[より正確な情報の提供]という[目的]を持つ「ナラ表現」が学習項目として一貫して位置づけられている。

一方、第 27 課の場合は、指導項目に混乱がある。まず、【会話】1 だが、この「ナラ表現」は「2000 年試案」にはない。会話全体が「この天気なら」という A の発話で始まっているので「文脈化」がむずかしい面があるが、「ソフトボールの試合」が顕在的ないし潜在的话题と考えると、[自分の信念・意見の根拠づけ]が[目的]であるような表現で、談話のターンを取る場合にも使えるため、学習段階は【上級前半】ということになる。すると、【文法】1-6 の三つの例文とは、一見しただけでも相当相違のある表現類型であることが分かる。【文法】の 3 例文自体も一文であるため、そ

10) ただし、人物 B の「早速ですが」がどのような文脈で出たものかは不明。その意味では、場面の想定がしにくいおかしな会話である。

れぞれ複数の「文脈化」が考えられるが、低いほうの学習段階の例として考えれば、「寒いなら」は「2000年試案」では【中級後半】〈文型 3: pp. 7～8〉, 「おなかがすいているなら」は同〈文型 1: p. 7〉, 「車に乗るのなら」は同〈文型 9: pp. 9～10〉である。【文法】1-6の解説では、ナラ一般については、“なら has various functions. Here it indicates that the part that follows is the speaker’s opinion, judgement or advice that is based on what he sees”としている。このあと【会話】1の中の例が“judgement”であり、【文法】1-6の3例文が“advice”であるとの説明が続くが、“judgement”と“advice”の「文脈」が相当異なること、および三つの例文同士の「文脈」も同じでない可能性があることは語られないままである。しかも、構文練習である【練習】1には、上記すべての表現と同類型の、指導すべき学習段階の異なる表現が入り交じって¹¹⁾いる。

このように、『Communicating in Japanese』においても、『Situational Functional Japanese』と同様、本文会話・文法解説・構文練習の間の一貫した「ナラ表現」指導の枠組みが見えてこない。ただし、『Communicating in Japanese』においては、第19課で本文・解説・練習が一致した例が見られた。これは、表現類型別指導を念頭においた教材構成の可能性が示された例として評価したい。

4. 『新文化初級日本語』の場合

『新文化初級日本語』は、1987年初版発行の就学生向け日本語教科書『文化初級日本語』の改訂版である。旧版と同様、文型・文法シラバスを基礎におきながら、機能主義的な側面も共存させていこうとしているところに特徴がある。本教科書の【本文】【文型】で「ナラ表現」が出ているのは、以下の部分である。

11) さらに、練習8は第18課【会話】4と同類型であり、他の課の文型練習まで混入していることになる。

◇第22課 本文2 (必要な部分のみ引用)

社 員: エレクトーンは弾けますか。

京 子: いいえ、ピアノなら弾けますが、エレクトーンはちょっと....。

社 員: 1週間にどのぐらい来られますか。

京 子: ええと、週3日..., 水, 土, 日なら行けます。

◇第22課 文型3 (必要な部分のみ引用)

1) A: 今度の土曜日、映画を見に行きませんか。

B: 土曜日はちょっと....。日曜日なら行けるんですが....。

2) 幸 子: チンさんはおさしみが食べられますか。

チ ン: おさしみはちょっと....。でも、焼き魚なら食べられます。

3) 良 子: 武さんは料理が作れますか。

武 : そうですね。簡単な料理なら作れます。

◇第31課 本文1 (必要な部分のみ引用)

斎 藤: 新宿から羽田空港へはどうやっていけばいいんですか。

社 員: 楽に座って行くならタクシーですが、安く確実に行くならモノレールに乗るといいですよ。

斎 藤: じゃ、タクシーで行くことにします。。

社 員: タクシーでいらっしゃるなら、2時間ぐらい前に出たほうがいいですよ。

◇第31課 文型1 (必要な部分のみ引用)

1) A: 東京で買い物をするんですが、どこがいいですか。

B: いい品物を見るなら銀座ですが、安く買うなら上野がいいと思いますよ。

2) A: 来年箱根へ行こうと思っているんですが、いちばんいい季節はいつですか。

B: 桜を見るなら春ですが、紅葉を見るなら秋がいいと思いますよ。

3) A: 新宿からモノレールに乗れますか。

B: いいえ、モノレールに乗るなら山手線で浜松町まで行かなくてはいけません。

4) 学生: すみません、ここでたばこを吸ってもいいですか。

先生: ここは禁煙ですから、たばこを吸うなら、あそこの喫煙所で吸ってください。

第 22 課は、【本文】【文型】ともに、「2000 年試案」では【中級前半】〈文型 1: pp. 5~6〉に相当するものである。この【文型】3 には練習部分がないが、例文は、依頼や質問に対する[より正確な情報の提供]という[目的]を持つという点で、すべて同じ表現類型のものであり、【本文】2 の用法とも一致する。

第 31 課では、まず【本文】1 に二つの「ナラ表現」があり、「タクシーでいらっしゃるなら」のほうは、「2000 年試案」では【初級後半～中級前半】〈文型 1: p. 5〉の二つ目のタイプに相当するものである。他方、「楽に座って行くならタクシー...、安く確実に行くならモノレール」のほうは、「2000 年試案」にはないが、第 22 課の【中級前半】〈文型 1〉と同じく、[より確実な情報の提供]を[目的]とするものに近い表現類型と言える。異なるのは、「2000 年試案」の【中級前半】〈文型 1〉の[人物]が[「依頼」や質問をする相手 → ← 制限・条件つきで肯定的返答をする自分]であったのに対し、「楽に座って行くなら...」のほうは[「依頼」や質問をする相手 → ← 選択肢を示して返答をする自分]であるところである。学習段階は、【中級前半】〈文型 1〉と同様の「文脈」で使えるので、やはり【中級前半】でよいと思われる。

一方、第 31 課【文型】1 の例文を見てみると、1) 2) は「楽に座って行くなら...」と同じであるが、3) 4) は「2000 年試案」にはなく、かつ 1) 2) とも異なる。今、3) 4) を「文脈化」してみると、それぞれ次のようになる。

3) → ◇人物: 解釈を確認する相手 → ← 相手の解釈を訂正する自分

目的: 正しい情報の提供

- 4) →◇人物:「許可求め」や質問をする相手 →←「許可与え」の条件を示す自分

目的: 相手の利益実現への援助

すなわち,【文型】1では内部の例文同士の表現類型が異なっており,かつ【文型】と【本文】との間では扱う表現が一部ずれていることになる。なお,第31課の【練習】は「楽に座って行くなら…」と同タイプの表現の談話練習であり,【本文】【文型】とのずれは見当たらない。

このように,『新文化初級日本語』の「ナラ表現」の扱いは,第22課では【本文】【文型】一貫性が見られるものの,第31課ではそれが失われている。ただ,第31課でも,【本文】【文型】【練習】間には,「楽に座って行くなら…」タイプを学習させることで一致が見られる点は,他の二つの教科書より教授法上の一貫性が高いと評価できる。

5. まとめと課題

以上,市販の3種類の教科書の「ナラ表現」の指導の枠組みを「2000年試案」との比較で分析してみた。この結果,教科書側について言えることは次のようなことである。

- 1) どの教科書も本文会話・文型 / 文法解説・構文 / 談話練習の間で,「ナラ表現」の類型や扱い方に完全な一貫性が見られない。
- 2) 3種の教科書のうち,本文会話・文型 / 文法解説・構文 / 談話練習に関連がうかがえるのは,『Communicating in Japanese』と『新文化初級日本語』の一部であり,なお後者のほうが前者より全体の一貫性が高い。

一方,「2000年試案」について言えることは次のようなことである。

- 3) 「2000年試案」にない表現類型が教科書3種にいくつか見られた。このことは,『基礎日本語辞典』と『教師と学習者のための日本語文型辞典』のナラの項の例文だけではカバーしきれない表現類型が

存在することを意味する。したがって、今後さらに教科書調査により「ナラ表現」類型の収集・分類をする必要がある。

- 4) 3種の初級教科書の「ナラ表現」は、「2000年試案」では中級レベルに配置されているものが多い。したがって、「2000年試案」の学習段階配当の妥当性が改めて検討されなければならない。

1) 2) は、初級日本語教科書の機能主義的枠組みと形式主義的枠組みとのバランスをどこでとるべきかという議論に発展する。本論で見たところでは、機能主義的な志向の強い教科書でさえも、接続助詞のナラについては各表現類型の機能が特徴的に出てくるような、例文の提示や練習のさせ方が徹底しておらず、「前件が話題、後件がそれへのコメント」程度の解説であらゆる「ナラ表現」をまとめてしまう、形式主義の落とし穴にはまってしまっているように見える。ここからいかに脱出するかが模索されなくてはなるまい。

3) 4) は、筆者の「文脈化」「学習段階化」の一層の深化・精緻化を促す課題である。どちらの問題も、最終的には1) 2) から提起される課題——機能と形式とともに学習できる教材の開発——の解決に貢献できるような方向へ研究を進めていくことになるであろう。

【参考文献】

- 森田良行 (1989)・『基礎日本語辞典』・角川書店
川口義一 (1996)・「日本語指導の文脈化」(『日本語教育異文化間コミュニケーション』所載)・北海道国際交流センター
グループ・ジャマシイ編著 (1998)・『教師と学習者のための 日本語文型辞典』・くろしお出版
川口義一 (1998)・「意味記述の教材化——『基礎日本語辞典』のナラの記述を例として——」・『日本語研究教育センター紀要』11号・早稲田大学日本語研究教育センター
川口義一 (1999)・「文型記述の教材化——『教師と学習者のための 日本語文型辞典』の「ナラ」記述の文脈化——」(『日本語研究と日本語教育』所載)・明治書院
川口義一 (2000)・「「ナラ表現」の「文脈化」と「教材化」」・『日本語研究教育センター紀要』13号・早稲田大学日本語研究教育センター

(かわぐちよしかず)